

2021年9月3日

東京学芸大学 文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制整備事業」2021

企画開発会議調査部会 第3回ヒアリング資料

学校法人荒井学園 高岡向陵高等学校

高岡向陵高校（全日制普通科）

外国ルーツの生徒への対応等について

2021. 9. 3

外国籍、外国にルーツのある生徒

()日本語指導を受けている生徒

	ブラジル	パキスタン	フィリピン	その他
1年 (11/167)	3人(1)	2人	5人	中国1人 (1)
2年 (10/166)	1人	4人(1)	3人	中国2人 (1)
3年 (9/145)	4人(1)		5人	

平成23年(2011年)の外国ルーツの生徒数

- 1年 = 2人
- 2年 = 0人
- 3年 = 1人

日本語指導はなかった

富山県の高校選択の考え方について

- 県立優位
- 私立 ー 特定の部活動等に力を入れたい生徒
県立に行けなかった生徒

本校の外国ルーツの生徒の受入れについて

- **推薦入試または一般入試の受験**

(外国ルーツの生徒対象の特別試験等はない)

(学力検査 または 面接・作文)



(基本的に、ある程度受け答えができれば受け入れている)

入学した生徒への支援(2016年～)

- 日本語指導が必要な生徒の見極め

→面接やその他のやり取り、中学校での様子、作文etc

- 日本語指導実施

- ①放課後学習(部活動のような形)



- ②週2回程度の取り出しでの指導



- ③国語総合(週4)、古典(週2)の授業の全てで取り出し指導

日本語指導担当者

アレッセ高岡の青木先生 が担当



本校の教員と非常勤講師(アレッセ高岡の青木先生を
はじめとする日本語指導者)とのTT
(単位取得につなげる)

その他の支援

- ・入学前説明、入学式、保護者会に通訳
これまでお願いした通訳の方＝ポルトガル語、タガログ語、ウルドゥー語
通訳が見つからない時＝富山県外国人ワンストップ相談センター利用、
翻訳アプリ利用
- ・外国籍の生徒向けの進路冊子(アレッセ高岡作成)配付
- ・考査のルビ振り(2017年から必要な生徒がいれば)
- ・タブレット端末利用(2020年から入学者全員所持)

本校に入学した生徒への支援の成果と課題

①放課後学習(部活動(国際部)として)

→日本語をもっと学びたいという関心、やる気のある生徒のみ
残ってまで勉強したがない、アルバイト優先

成果:外国ルーツの生徒の自己肯定感を向上させ、将来を切り拓く力を
身につけ、進路実現*にもつながった生徒もあり、ある程度活動の
成果はあった *大学等への進学)

課題:日本語学習が必要な生徒への支援に十分届かない

※その後、部活動としての日本語学習は、外国ルーツではない生徒も部員に加わり、
外国語での学習動画作成を主な活動にシフトチェンジ

②週2程度を取り出しでの指導

→日本語指導が必要な生徒が受けられるように、放課後でない時間で日本語指導の先生がいる時間(授業時間)に取り出し

成果:日本語指導の先生に学校生活、進路等の相談ができ、
心のよりどころとなった
日本語の学習が必要な生徒の学習時間をつくれた

課題:クラスでの授業が遅れる
個人差があるが、週2程度では就職、進学に必要な日本語力
にまで達しない生徒もいる

③国語総合(週4)、古典(週2)の授業の全てで取り出し指導

それぞれの教科目の教科書内容を多少取り扱いながら、
メインは日本語指導
指導時間に限界があるものの、今のカリキュラムの中ではベスト

成果:日本語力が向上し、他教科の成績も向上した生徒がいる

課題:教科書の内容の取扱い

成績のつけ方

(本人の頑張りが反映されにくい、他の生徒との整合性)
個人差があるが、就職、進学に必要な日本語力にまでは達しない生徒もいる

①教員間の外国ルーツの生徒の受入れに対する温度差

②少人数、個別指導、ITをするための人員、経費の問題
(公的な支援がない(受けにくい))

※自治体単位の支援はあるが、学校の所在地＝生徒の居住地
ではないため支援の窓口や方法がバラバラ／情報が入りにくい

③受入れ基準とその後の日本語指導が明確に確立できていない(カリキュラムに組み込められていない)

- ④他者に対する配慮や知識不足などからくるトラブル
(生徒－生徒 教師－生徒)
(マイクロアグレッション)

- ⑤卒業後の進路にうまくつなげられない
(日本語能力、職業観、ビザ(家族滞在))

①教員間の外国ルーツの生徒の受入れに対する思いの温度差

→教員研修や支援の方法を明確にして、受入れの不安を解消することで、外国ルーツの生徒への受け入れに対する否定的な考え*を変えていく

(*保護者対応の困難さ、文化の違いからくるやりにくさ、日本語問題、授業料未納etc、)

②少人数、個別指導、TTをするための人員、経費の問題

(公的な支援がない(受けにくい))

☞ 全日制の県立高校には日本語指導の支援を必要とする生徒が少ないことから、県等からの支援策はあまりない

→市、県、社会全体の関心を高めることが必要

(一方 各教育現場で発達障害等に対しては配慮するように という動きがある。
ただ、TTの人材確保などへの資金的な支援はない。(私立なので別枠か)

③受入れ基準とその後の日本語指導が明確に確立できていない

→②(公的支援や対応策)の課題の解決があれば、学校として日本語学習の時間をカリキュラムに入れ込み、より積極的により適切な指導をしやすい (現状では舵は切れない)

- ④他者に対する配慮や知識不足などからくるトラブル
(生徒－生徒 教師－生徒)
(マイクロアグレッション)

→教師へ・・・教員研修の実施

→生徒へ・・・授業、HRなどを通じた「多様性を認め合う
心の教育(道徳教育)」実施

(全てのクラスで行うためには教員の意識を変え、
積極的な授業の研究も必要)

⑤卒業後の進路にうまくつなげられない
(日本語能力、職業観、ビザ)

→就職・進学の際の試験の変化と
就職先や進学先での対応の変化を望む

※留学生や帰国子女等を対象にした特別入試でなく、一般の高校生と同じ入試での受験となったり、外国人としてではなく、日本人としての採用(雇用)となったりするので、試験が難しい。また就職後、言葉や文化習慣等の問題が発生している)

※家族滞在ビザである場合、正規では働けない。

→キャリア教育(生徒、保護者へ)の工夫

1) 日本語以外での学習上の問題点

(既習事項の定着と母語の問題)

- ・中学校(小学校)までの学習内容が理解できていない(九九、分数etc)

- ・母語でも十分な理解力がないため、高校の授業は翻訳機能等を駆使しても理解が難しい

(情報*、理科系etc)

*「社会と情報」は母語でも似た内容で学習できるものがない。

2) これまで本校に入学した外国ルーツの生徒の進路

- ・大学進学した生徒(国公立大、私立大)
- ・海外(中学前まで住んでいた国)で進学した生徒
- ・短大や専門学校に進学した生徒
- ・就職(語学力生かす)

Good

- ・進学を希望していたが、学力や経済的問題で断念→アルバイト、派遣社員
- ・学校斡旋での就職を希望せずアルバイト等を継続
- ・就職するも就職先で困難

学力、キャリア教育、情報不足

- ・親の都合で他県へ転学
- ・経済的理由で退学
- ・不登校となり退学(怠学? 家庭の問題? 学校でのやりにくさ?)

学力、キャリア教育、心の教育、教員の対応

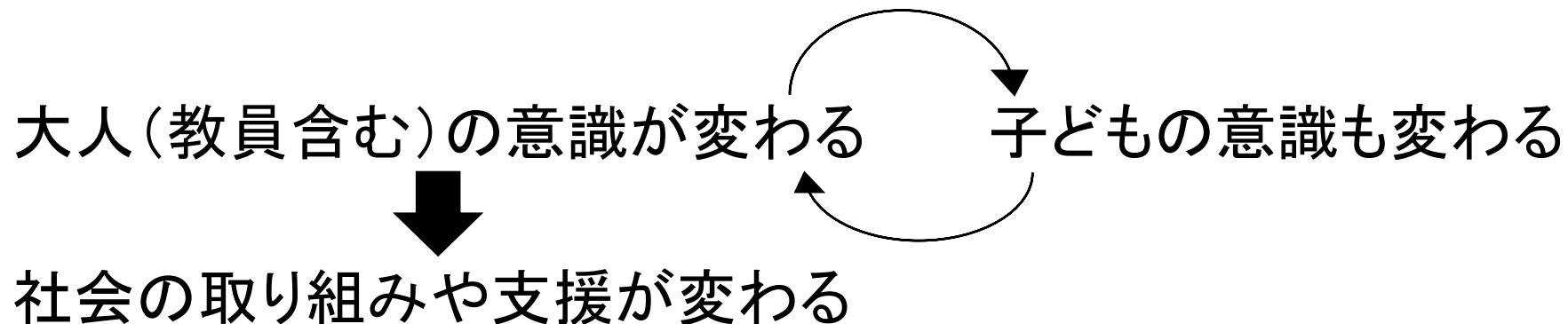
3) 現在の国際部の取り組み

- 生徒から多文化共生を発信

- 学校の他の生徒や市や地域の人々へ、多文化共生社会を考えようと情報発信をしている

- 外国ルーツの生徒に誇り

- 外国ルーツでない生徒も多様性へ理解



ありがとうございました。